

↓ 当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこのたび、下記項目の検査受託を開始することとなりましたのでご案内いたします。

弊社では皆様のご要望にお応えすべく、今後とも検査の新規拡大に努めてまいります。

敬具

記

新規受託項目

- [27063] マイコプラズマ・ジェニタリウム (M. genitalium) 薬剤耐性遺伝子解析

受託開始日

- 2022年6月27日(月)



マイコプラズマ・ジェニタリウム (M. genitalium) 薬剤耐性遺伝子解析

マイコプラズマ・ジェニタリウム (MG) は、非クラミジア・非淋菌性感染症における主要な病原菌で、淋菌やクラミジアと同様に、尿道炎、子宮頸管炎や骨盤内炎症性疾患を引き起こします。

MGの正確な疫学調査は実施されておりませんが、淋菌、クラミジアの感染者数および尿道炎におけるMGの割合などから国内の感染者数は1万人程度と推定されます。

MGの分離培養は極めて難しく、これまで診断法が確立されていませんでした。

本年6月1日付でリアルタイムPCR法による検査法が、MG感染症を疑う患者に対して治療法の選択のためおよび治療効果判定のために実施した場合に保険算定可能となりました。

現在MGに対しては、アジスロマイシン (AZM) およびシタフロキサシン (STFX) という抗生物質による治療が推奨されています。しかしながら、近年薬剤耐性遺伝子を持った菌が増加し治療失敗例も散見される状況にあります。

本検査では、AZM耐性遺伝子とされる23S rRNA領域、STFX耐性遺伝子とされるParCおよびGyrA領域における遺伝子変異をパイロマークシーケンス法を用い測定します。

疫学研究等にご活用ください。

検査要項

項 目 コ ー ド	27063
検 査 項 目 名	マイコプラズマ・ジェニタリウム (M. genitalium) 薬剤耐性遺伝子解析 ^{*1,2}
検体量/保存方法 ^{*3,4,5}	ぬぐい液 [容器番号：85番] / 冷蔵 または 初尿 4.5mL [容器番号：86番] / 冷蔵
検 査 方 法	パイロマークシーケンス法
基 準 値	(設定せず)
報 告 様 式	変異なし、変異遺伝子 (GyrA、ParC領域の場合、アミノ酸に置換した一文字略号を表記) および解析不能
所 要 日 数	4～7日
検 査 実 施 料	未収載
備 考	*1：M. genitalium「陽性」をご確認の上、ご提出ください。 *2：解析対象は、下記3領域となります。 23S rRNA (23S rRNA A2071, A2072)、GyrA (GyrA M95, GyrA D99) および ParC (ParC S83, ParC D87) *3：ぬぐい液の処置方法 ①検体採取後直ちにスワブを容器底部まで入れてください。 ②そのままキャップをして、2～8℃で冷蔵保存してください。 *4：尿の処置方法： ①採尿後速やかに容器に入れ、密栓してください。 ②容器を2～8℃で冷蔵保存してください。 *5：咽頭ぬぐい液 [容器番号：85番]、うがい液 [容器番号：86番] でも検査可能です。

参考文献

濱砂良一: 医学と薬学 78 (9): 1033-1041, 2021.

Deguchi T, et al., J Infect Chemother., 24 (11): 861-867, 2018.